

# 教育体験

サマーセミナー in 芸北

平成 23 年 8 月 2～4 日の 3 日間、広島県立加計高等学校芸北分校において、加計高等学校、加計高等学校、千代田高等学校の 1～3 年生、約 80 人の生徒が参加したサマーセミナーが開催されました。

このセミナーは、県立広島大学と広島県立加計高等学校芸北分校との高大連携の取り組みの一つとして、平成 21 年度から始まりました。目的は、教員志望の大学生が高校生に対して行う教科指導や大学生活についての講義、地域活性化について高校生と一緒に考える座談会を通じて、高校生と大学生が交流することです。学生にとっては、授業力向上や、高校生との関わり方、過疎地域の抱える問題を学び、考える機会となりました。一方、高校生にとっても、大学生と一緒に地域や自分の将来について考える貴重な機会となりました。

本学からは、教員志望の国際文化学科 3・4 年生 4 名が参加し、それぞれ英語・国語の授業を 3 日間、3～8 時間、担当しました。

以下に学生の感想を掲載します。

悩む場面もありましたが、生徒と関わっていく中で解決していきました。どの生徒も一生懸命に話を聞き、授業に参加してくれたので、とても心強かったです。刻々と変化する生徒の反応を、注意深く観察することが重要だと感じました。3 日間という短い期間でしたが、改めて教師という職業、教育について考え直すことができました。

セミナーでは高校 3 年生の授業を担当しましたが、受験生に対する接し方や授業展開について考えるいい機会となりました。最も印象に残っているのは、生徒たちの勉強への意欲や姿勢です。私たちのような学生が行う授業に対しても積極的に発言し、真剣に取り組む姿に刺激を受けました。常に謙虚に学ぶ姿勢を忘れずにいようと思います。

分校の生徒の多くが「芸北が好き」「〇〇になって、芸北に戻ってきたい」と言っていたことが印象に残っています。国語の授業を担当しましたが、毎時間意見・感想・鑑賞文のいずれかを生徒に書いてもらいました。すると、ほとんどの生徒がきちんと自分の思いを書けていることに驚きました。生徒が自分の考えを臆せずに伝えることができるのは、その地域の教育や人づきあいの在り方によるところが大きいのではないかと思いました。

芸北分校神楽部の生徒による演技を見せていただきました。神楽部の部員は、スキー部や陸上部などと兼部しながら、毎日各々の部活が終わった後、神楽の練習に励んでいるそうです。生徒と地域文化について意見交換した際に、彼らはみんな、神楽に誇りを持っていて、神楽を通して地域を活性化できないか、芸北に人を呼ぶことができないかと真剣に考えていました。独自の文化を持つ地域だからこそできることがたくさんある、と気づくことができました。

